

編集後記

編集長(ダン シロウ)

今号も又、新連載が三本あります。六〇人にもなろうかという連載陣ですから、様々な事情で休載になる方もあります。大所帯になれば、それも仕方のないことですが、皆さん元気で連載していただければと願っています。

コロナ禍は一年経ってしまいました。昨今の頃はまだクルーズ船や中国の・・・なんて思っていたような気もしますが。その後の世界中の大騒動から緊急事態宣言や自粛警察などと、うろたえるばかりでグズグズ。ワクチンの話も、いつになるのやらグダグダ。

これで大量死者を出さずに済んでいるのは、逆に大した国だと思いませんか。

そんな中、一年四冊が11年目も刊行完了になります。最近ではあちこちでちょっと自慢気味にマガジンのことを話します。300頁超えの雑誌を年四回、遅れることなく発行しているなんて、なかなかない事だと思うからです。

せっかくなので読者の拡大も積極的には思いますが、アクセス数だけ増やしても意味はありません。必要な方に、必要なときに届くのが本意です。そのためにバックナンバーも揃えています。

一昨年、2019年の年末には執筆者の集いを、琵琶湖北部の宿で行いました。コロナで二回目(2020)は難しかったのですが、この間にzoomが普及しました。

時々話題にしてきた「対人援助学マガジン読書会」をzoom開催なら可能ではないかと思えます。また、書店イベントとして外国映画などで見かける、執筆者のトークイベントをzoomで開催も可能かと思っています。いずれにしても、やってみたいと思う人が動かないと駄目ですけど。

とにかくこの世界に、まだないものを一つ付け加えることは、確実に社会変化の一步です。そもそもこのマガジンだって12年前にはなかったものです。

その背景には社会インフラの整備状況があることを十分知っています。私達が頑張っているように、それぞれの人達が自分の持ち場で尽力してくれていることに感謝を込めて。思い上がるのではなく、世の中に自慢できることを一つでも多く増やしていきたいと思えます。

編集員(チバ アキオ)

充分配慮した上で、秋田の実家に行った。約2年ぶり。フリーランスになるまでは多忙で、あまり行けなかった。フリー以降はもっと秋田に行けるはずだった。

約2年ぶりだが、なかなか気軽には親戚の方々にも会えない。秋田弁が恋しくなり、ケーブルテレビのコミュニティチャンネルをよくつけていた。お国言葉は今まで意識していなかったけれども、結構好きなことに最近気づいた。

きっかけの一つは、村本先生が連載している東日本家族応援プロジェクトに参加させていただいたことだった。それをきっかけに自分のルーツを起点に東北に目を向ける機会も増えた。東北の各地が、それぞれに深い歴史を持ち、そして繁栄を願い、汗を流した先人たちのたくさんのエピソードにも触れることができた。マガジン執筆陣もよき時間を、よき未来を作ることを願って汗をかいているところでは同じである。時代によって、どんな立場でどんな幅のことを語るかの違いだけである。

今年は祖父と同じ仕事を経験した1年だった。来年はもう一人の祖父がしていた仕事をするようになる。人生100年時代になるところした一致も増えるだろう。ルーツが今を精神的に支えることも増えるだろう。

私のルーツの人たちには自分史を残している人もいる。私の祖母は自分の人生を書面で残し、いとこがワードで冊子にして、親族に配ってくれた。その祖母の義母にあたる私の曾祖母も残している。自身は学校の先生をして、そこから結婚した自分の歩みを記した。更にその旦那の一代記も残している。それらを見ていると市民の視点からの明治、大正、昭和、平成が描かれ、興味深い。その時代の課題に向き合い、努力をしている姿が見えてくる。

マガジンを後世の人が見て思うこともあるだろう。自分は子孫たちの励みになる人生を歩んでいるだろうか？そんな問いかけを自分に突きつけることも増えたように思う。

編集員(オオタニ タカシ)

このところ、対人援助学マガジンのバックナンバーに目を通す機会が増えました。そういえば編集員になったのは10号からで、それまでは単なる熱心な読者であったことを思い出しました。これだけ夢中に読めるものに次々巡り合えるのは、編集者の役得だなあと思います。

今号の総ページ数は300ページを優に超えています。実は目次もそう遠くないうちに2ページに収まらない状況になるかもしれません。目次が1ページに収まらなくなって驚いたのがつい先日のようなのに。拡大を目標にしているわけではないのに、結果的に拡大していつているのが面白いです。

今号から、「マガジン執筆者訪問記」と称して、機会を見つけて執筆者を訪ね、その記録を残すことにしました。機会があったら、という前提だから、不定期連載でと考えています。執筆者が増えるペースが今のようになるとしたら、いつまでも終わることがない連載なのかもしれません。執筆者の方には、日常にお会いしている方から、何度か面識がある方、まったく面識のない方まで幅広くおられますが、訪問記でお目にかかれる機会が得られるといいなと願っています。

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は

danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町4-3-8

ランプラス二条御幸町4-0-2 仕事場D・A・N

対人援助学マガジン

通巻44号

第11巻 第4号

2021年3月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第45号は2021年6月15日
発刊の予定です。

原稿締切2021年5月25日！

執筆者募集

本誌は常に書き手に門戸を開いています。新たなジャンルからの、執筆者の登場に期待します。

自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、自分だからこそ描ける分野の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。

ページ制限なしの連載誌です。必要な回数も、心置きなく書いていただけます。ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

執筆資格は学会員であること。 現在非会員で書いていただく事になった方には、[対人援助学会への入会](#)をお願いしています。

対人援助学会事務局

540-0021

大阪府中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&FAX学会専用 06-6910-0103

表紙の言葉

この漫画のキャプションは

「ゴロゴロしないでよ！」。

語呂合わせだ。それ以上に深い意味はない。

(2021/03/15)